

第IV部門

近代における木屋町通の景域形成とその発展

京都大学工学部 学生員 ○水野 萌

京都大学大学院工学研究科 正会員 出村 嘉史

京都大学大学院工学研究科 正会員 川崎 雅史

京都大学大学院工学研究科 正会員 樋口 忠彦

1. 研究の背景と目的

かつての町や集落は水辺を中心として形成されてきた。しかし現在ではその中心が街路へと移り、水辺は都市の裏側になってしまっていることが多い。

本研究の対象とする木屋町通と高瀬川周辺の地域は、京都市の中心部に位置し、歓楽街として有名である。江戸時代に運河として人工的に開削された高瀬川と、近世の経済を支えた木屋町は、現在近代都市の景観要素としての役割を担っている。

そこで魅力的な景観を持つ場所を「景域」とし、対象地が景域として発展した経緯を、高瀬川が舟運機能を失った近代以降に着目して分析することを本研究の目的とする。

2. 近代の履歴

明治時代にはすでに高瀬川の舟運機能は衰えを見せ、大正9年(1920)、鉄道敷設のために高瀬川を暗渠化する計画が持ち上がった。それに反対した地域住民の意見書には、高瀬川の景観的役割を認め、木屋町の情緒を守りたいという意味が明確に記されている。さらに、河原町通を拡幅することによって幹線道路機能を移動させ、木屋町通を風致街路として利用すべきだと主張した。その結果、住民の主張に従って道路整備が行われた。

現在の木屋町通の道路舗装や植栽、高瀬川にかかる橋の整備は、平成4年(1992)から始められた。木屋町通整備計画は、歴史情緒や親水空間の創出を目的としているが、全域において実現しているとは言いがたい。原因を考察するために木屋町通と高瀬川、隣接する建物を含む横断面図を上流から並べると、図1のように建物高さや道路配置に変化が見られた。景域が発展している地域は、②三条小橋界限、⑤船頭町界限、⑥低層住宅が並ぶ地域、⑦西橋詰町界限、である。

それらの特徴は川を臨む視点場が整備されているこ

とであるが、その形式はおのおの異なっている。

ここでは⑤船頭町界限を取り上げ、近代における景域の形成と発展を分析する。

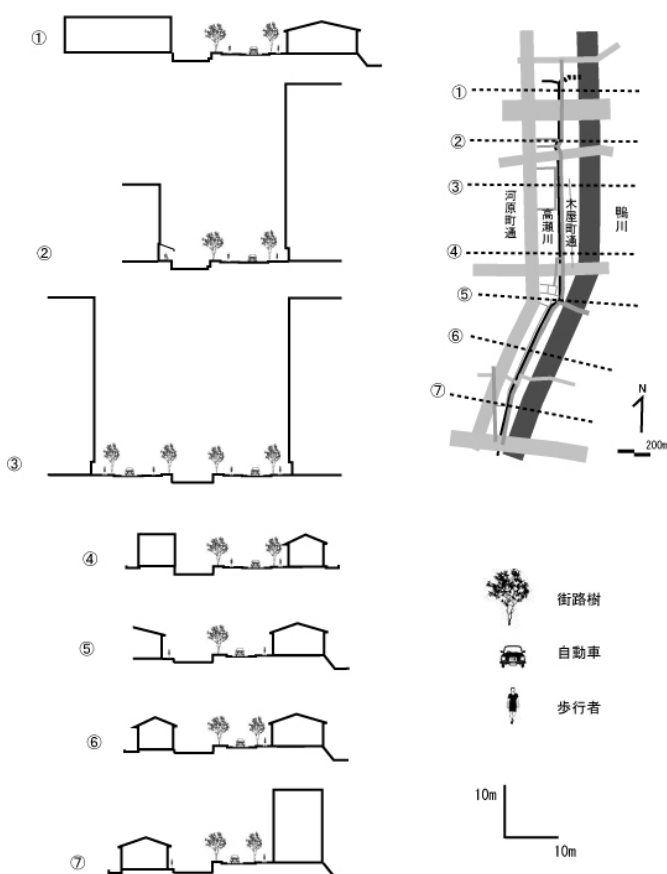


図1 高瀬川沿いの断面図

3. 船頭町界限

船頭町は四条通の南側に位置する町である。江戸時代の町地開発の過程で街路や家屋が緻密化したが、高瀬川の舟運に依拠した発展ではなかった。次第に高瀬川の舟運が最盛期を迎え、船頭町の北に位置する四条小橋付近は最大の荷揚げ場となり、経済的に繁栄した。さらに明治5年(1872)には高瀬舟が旅客も輸送し始め、明治28年(1895)には高瀬川東岸に路面電車を通すために図2のように高瀬川東岸が開かれた。これ

らによって、交通の要所としても発展したと同時に高瀬川を見る視点場が増えたことになる。

現在、船頭町界限における代表的な視点場は西岸に整備された親水歩道（図3）と花屋旅館である。

親水歩道は船頭町と高瀬川の境界に位置する短い道である。町全体の緻密で複雑な街路構成の中で唯一川に沿う道であり、幹線道路から歩道に至るまでの間に川の存在をまったく感じさせないため、突然広がる親水空間に対する驚きを含む景観体験ができる。花屋旅館は明治の初期に趣味人の別荘として建てられた。『聴水居』と呼ばれる部屋には川に面する窓の真下にもうひとつ小窓（図4）が取り付けられていて、川のみを風景として取り入れる工夫が見られた。低い位置に取り付けられた小窓によって切り取られた高瀬川は、実際よりも小さく、また見る者の近くに感じられる。

このように船頭町界限の景域の形成と発展には川の後背地にあたる地域の街路形成から、舟運の発展、近代における路面電車の開通といった歴史が関わっていることが示された。さらに建築内部や歩道などの視点場の多様性がこの景域を魅力的にしている。

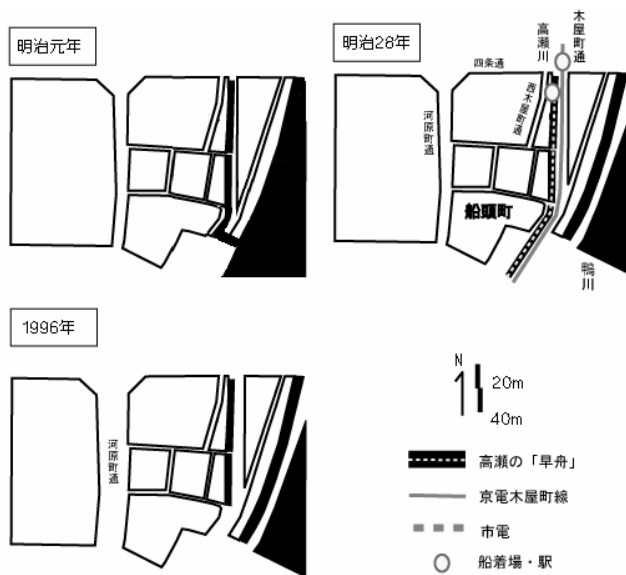


図2 船頭町における区画構成の変遷



図3 親水歩道の風景

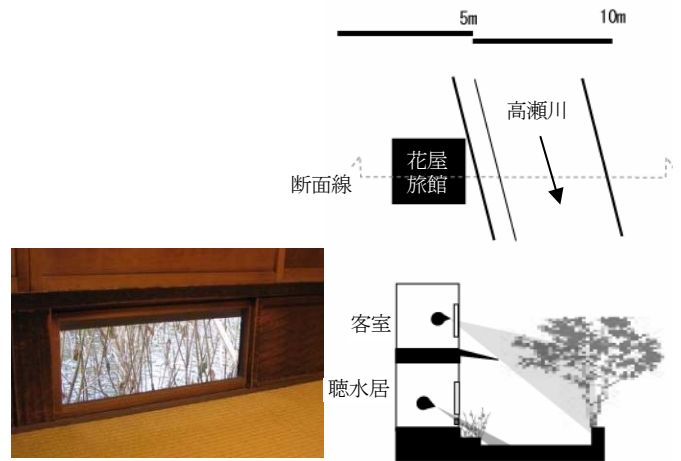


図4 花屋旅館と高瀬川の関係

4. 結論

船頭町界限と同様に②三条小橋界限、⑥低層住宅が並ぶ地域、⑦西橋詰町界限も分析を行った。その結果、三条界限では高瀬川の開削以前や、開削時に形成された地形を生かした建築が昭和後期に建てられ、それらが川と一体になって景域が形成されたこと、低層住宅群は浜地という舟運のための施設の跡地が利用されたため、川に沿う短冊状の敷地に特徴的な町並みが形成されたこと、西橋詰町界限では、高瀬川の開削以前から存在する町が、鉄道敷設や隣接する近傍の河原町通の拡張などの近代化の影響を受けずに残されたことによって現在の独特の雰囲気が作られていることが明らかになった。

参考文献

- 田中尚人「水系基盤による近代京都の都市形成に関する研究」京都大学大学院工学研究科博士請求論文，2001
- 土本俊和「近世京都における高瀬新屋敷の成立と変容」日本建築学会計画系論文報告集 471 号
- 前田淳仁「京都における室内からの風景の見せ方に関する研究」京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻修士論文，2004
- 石田孝喜『高瀬川』思文閣出版，2005. 8